

# 平成 25 年度調査研究等計画書

事業名	アサリ漁業指導		
事業年度	平成21～25年	事業費 財 源	3,162 千円 (-) 3,162 (国) (諸)
		担当者	増養殖環境課 児玉 修
<p>【背景・目的】</p> <p>浦ノ内湾で壊滅的状况にあるアサリ漁業を復活させるため、アサリの減耗要因を究明するとともに、その資源回復策を検討する。</p>			
<p>【事業の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 浮遊幼生調査や天皇洲干潟におけるモニタリング調査を継続するとともに、減耗要因排除試験を行うことで天皇洲におけるアサリ稚貝の減耗要因を究明して、これを排除するための技術開発を行う。</li> <li>2 H24 年 1～2 月に天皇洲干潟において、アサリ資源の回復を目的とした県事業（干潟機能回復事業）による浚渫耕耘工事が施工されたことに伴い、その効果調査を行う。</li> <li>3 アサリ資源の回復に取り組んでいる「宇佐地区協議会」の活動を技術面から支援する。</li> </ol>			
<p>【全体計画とこれまでの成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 稚貝減耗要因の究明及びその排除効果の検討（H21～25 年度） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)アサリ浮遊幼生調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋期の浮遊幼生量と翌年の天皇洲の着底稚貝量がよく相関していることがわかった。</li> </ul> </li> <li>(2)天皇洲干潟モニタリング調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年夏期～秋期にアサリの大量減耗が起り、越年する個体がほとんどいないことがわかった。</li> </ul> </li> <li>(3)稚貝減耗要因の排除効果の検証 <ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟耕耘試験（H22～23 年度）と被覆網試験（H23 年度～）の結果から、ホトトギスガイのマット化やアオサの繁殖は夏期～秋期アサリ大量減耗の主要因ではなく、魚類等による食害がその主要因となっている可能性が高いことが示唆された。</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>2 干潟機能回復事業工区効果調査（H23～25 年度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・H24 年 7～8 月に工区内でアサリ生息密度の増加が認められたが、工区外では認められなかった。</li> </ul> </li> <li>3 「宇佐地区協議会」の活動支援（H21～25 年度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟モニタリング、干潟耕耘、海底耕耘、被覆網、底質改善などの活動を技術面から支援した。</li> </ul> </li> </ol>			
<p>【25 年度計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 稚貝減耗要因の究明及びその排除効果の検討 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)アサリ浮遊幼生調査（2 定点、4～6 月と 9～12 月、2 回/月程度）</li> <li>(2)天皇洲干潟モニタリング調査（2 定点、生物・環境調査、1 回/月）</li> <li>(3)稚貝減耗要因の排除効果の検証 <ul style="list-style-type: none"> <li>・囲い網・被覆網比較試験（3 定点、生物調査、1 回/月）</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>2 干潟機能回復事業工区効果調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング調査（4 定点、生物・AVS 調査、1 回/月）</li> <li>・被覆網試験（H24年設置）追跡調査（1 定点、生物・AVS 調査、1 回/月）</li> <li>・被覆網試験（H25年設置予定）追跡調査（10 定点、生物調査、3 回/年、委託調査）</li> </ul> </li> <li>3 食害調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚類採捕調査用小型地びき網等を用いて食害生物の採捕を試みる。</li> </ul> </li> <li>4 「宇佐地区協議会」の活動支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟モニタリング、海底耕耘、被覆網、底質改善などの活動を技術面から支援する。</li> </ul> </li> </ol> <p>【成果目標】</p> <p>干潟機能回復事業の効果を把握するとともに、天皇洲や旧アサリ漁場におけるアサリの減耗要因を究明して有効なアサリ資源回復策を見いだす。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>本研究の成果を活用して、事業規模でアサリ資源回復策が実施されることにより、浦ノ内湾のアサリ漁業の復活と地域経済の活性化につながる。</p>			